

剣の刃渡りの測定方法

○ 剣の刃渡り

剣の刃渡りは、2箇所^{はまち}の刃区を結ぶ線分と切先との最短距離を測定します。

刃区とは、刃の終点のことです。ただし、刃に隣接して、少許の加工により容易に刃付けができると認められる部分が存在する場合には、当該部分も刃とみなすこととします。したがって、そのような部分が存在する場合における刃区は、そのような部分の終点となります。

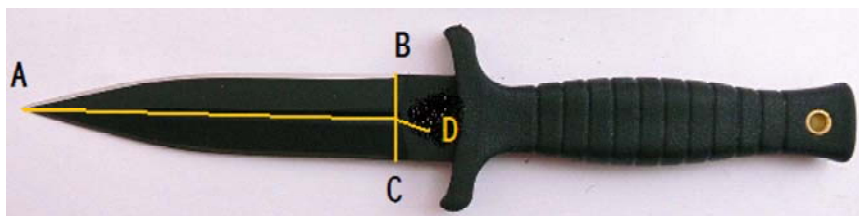
※ 次のような部分は、少許の加工により容易に刃付けができると認められます。

- ① 疑似刃（一見刃が付いていると誤認する程度に刃体の縁が薄くなっている部分）
- ② 疑似刃のような部分に存在するのこ刃状の切れ込み（切れ込みの部分に刃が付いているかどうかを問いません。）

したがって、剣の刃渡りは、上記の基準により特定した刃区を基準にして測定することになります。なお、切先から刃区までの距離が左右で異なる場合には、切先からの距離が短い方の刃区を基準として刃渡りを測定することとします。

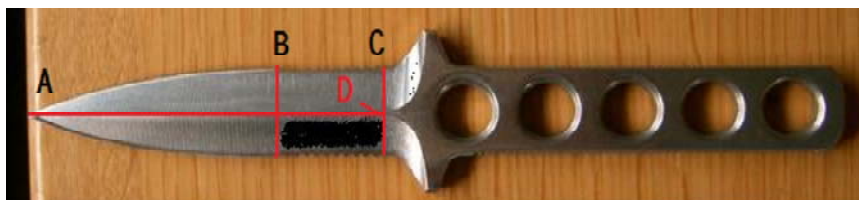
○ 剣の刃渡りの測定方法

1 典型的な剣の刃渡りの測定方法



刃渡りは、2箇所の刃区（B点及びC点）を結ぶ線分から切先（A点）までの最短距離（線分ADの長さ）です。

2 少許の加工により容易に刃付けができると認められる部分がある場合



例えば、本物件のように、現に刃付けのある部分（A～B）と少許の加工により容易に刃付けができると認められる部分（疑似刃のような部分に存在するのこ刃状の切れ込み）（B～C）が連続している場合、刃渡りは線分ADの長さです。

3 刃の長さが左右で異なる場合

刃（少許の加工により容易に刃付けができると認められる部分を含む。）の長さが左右で異なる場合には、切先から刃区までの距離が左右で異なることから、前述のとおり、切先からの距離が短い方の刃区を基準として刃渡りを測定します。



（解説）本物件は、 $A \frown B$ 及び $A \frown C$ に刃が付いており、 $B - F$ は棟のように厚くなっています。本物件の刃渡りは、切先 A からの距離が短い方の刃区である B を基準とし、B の対照点である B' に他方の刃区があるものと見立てた場合の、線分 BB' と A 点との最短距離（線分 AD の長さ）です。

なお、仮に $B - F$ が疑似刃である場合には、刃渡りは、線分 CF と A 点との最短距離（線分 AE の長さ）です。